

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中中学校	校長氏名	池田 哲哉	生徒指導主事氏名	伊藤 弘
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『第1回 府中中学校運動会』

取組のねらい『キーワード 活躍の場で、自信と誇り』

- ・生徒に活躍の場を持たせ、達成に向けて取組ませることで、やればできるという自信をつけさせる。
- ・生徒・教師・保護者が協力して取組むことで、学校への所属感や一体感を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード 中学生らしさ』

- ・今までのふれあい重視の小中合同運動会から、中学生らしい力強さ、規律、主体性等を重視した中学校単独の運動会に変更した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒たちが考える』

生徒実態

- ・指示待ちが多く、生徒が主体的に動くことができていない。(今まで教師主導の取組が多かった)
- ・生徒に自信がなく、正しいとわかっているにもかかわらず周囲に流される。
- ・特定の生徒の自分勝手な行動があり、問題行動をくり返す。(3年生が2年生時に)

生徒の活動

- ・3年生の応援リーダーを中心に、練習を企画、運営していく。(応援練習、行進練習等)
- ・縦割り練習では、3年生を中心に練習を行う。
- ・学年種目では、練習する際に、クラス内のかかわりや協力を必要とする種目を設定する。
(30人31脚、全員リレー、大縄とび)
- ・係は部活ごとに分担し、キャプテンを中心に担当を考え、責任を持って取り組ませる。
- ・課題のある生徒にも役割を与え、支援をしながら取り組ませる。(応援リーダー、係の仕事など)



応援リーダーの練習



全員参加の応援合戦



練習後の応援リーダーの話

取組の成果(効果)『キーワード 次につながる』

①生徒の達成感、学校としての一体感を実感

特に3年生は、「自分たちの代から始まった」という誇りを持つことができ、その後の活動でもリーダーシップを持って取組む姿勢を見せることができた。(部活動、文化祭など)

- ・最後のリレーの応援では、今まで出たことがない大きな声で応援している自分がいた。
周りの子も同じように声を出していた。府中中が1つになっていた。(3年)
- ・応援のあとみんなで泣いて、本気でやってきてよかったと思った。(3年応援リーダー感想)
- ・リーダーの人たちは「ついてきてくれてありがとう」と言ってくれたけど、リーダーの人が本気になって教えてくれたから、自分も本気になる事ができた。だからリーダーの人への感謝の気持ちでいっぱいです。(3年)

<文化祭後の3年の感想>

- ・最高の発表ができた。後輩たちには自分たちを超えるよいものをつくってほしい。

② 1・2年生の3年生への憧れと、次年度への意欲

- ・僕たちが楽しめたのは、休憩時間を減らして一生懸命やってくれた先輩方のおかげです。
来年は自分たちが今年よりいい運動会にしたいです。（2年生徒）

③ 取組を通して形成された生徒と教師の良い人間関係

④ 生徒のがんばりの地域・保護者への発信で、学校への理解・協力体制が確立

- ・府中学園最高！！生徒全員から、盛り上げていこうという気持ちが伝わってきたので感動した。（保護者感想）

※年度初めに①～④のことができたので、その後の様々な取組がしやすくなった。

今後の展開『キーワード 生徒が考える』

① 生徒が考え、生徒が作り上げる場面をさらに充実させる。

- ・応援合戦の中身の充実（コピーからオリジナルへ）
- ・生徒が種目を考える。

② 小中連携

- ・小学生の参加，見学
- ・小学校の運動会への中学生の参加

他校へのアドバイス『キーワード 生徒にまかせてみる』

- ・生徒に役割を持たせ、その頑張りを評価することの積み重ねで、生徒は主体的に動き、教師の予測を大きく上回る結果をあげることができた。
教師が指導したい気持ちを抑えて、生徒にまかせ、生徒の活動をしっかりと支援する体制づくりが必要である。